



『セラミック、ハイブリッド、ジルコニア』

金属アレルギーの恐怖から健康生活へ!

ネックレスや指輪などを付けると、肌が負けてしまって荒れる方がいますよね?
これが代表的な**金属アレルギー**(接触性金属アレルギー)です。

しかし**金属アレルギー**は目に見えない形で、いつのまにか全身に影響を及ぼしていることがあるのです。人体のメカニズムを狂わせることから、肥満、糖尿病、自閉症、発癌、老化なども無縁ではないという見解も出されています。
具体的な病名としては、掌蹠膿疱症、扁平苔癬、皮膚炎などの歯科金属疹(遅発性金属アレルギー疾患)が挙げられます。お口の中の金属、つまり歯科用金属は、大変過酷な環境のため、イオン化して溶け出しやすく、唾液、口腔細菌、血液などのタンパクと結合して抗原性(アレルギー性)を持つようになります。
特に口腔内に2種類の金属が存在した場合、質の良い方(イオン化傾向の高い金属)の溶けるスピードが加速します。



アレルギーを起こしやすい金属

■金属のパッチテストをした結果

1位	水銀	23%
2位	ニッケル	13.5%
	コバルト	13.5%
3位	スズ	12.8%
4位	パラジウム	11.3%
5位	クロム	9.5%

なんと1位の水銀~5位のクロムまで、すべて歯科でよく用いられている金属ばかりなのです!

一説によると、長年にわたり、日本では歯科用金属を口腔内に用いてきたことで、多くの方が金属イオンに触れた結果、感作され(アレルギーを起こしやすい状態になること)て、全国的に金属アレルギー患者が増えているのではというものもあります。

特に保険治療でよく使われる、12%金銀パラジウム合金というものがあるのですが、これはアレルギーを起こしやすい成分であるパラジウムとスズが含まれています。

また、今まで日本では、虫歯治療と言えばアマルガム水銀とよばれる、水銀を詰め物として使ってきました。

あの危険なイメージのある水銀をお口に使っているんですか?

よく患者さんに驚かれますが、事実なのです。

昔は材料学が発達しておらず、今の歯科治療でよく用いられるレジン(プラスチック)がなく、形を整えたりしやすいアマルガム水銀が用いられていました。

水銀は簡単に口腔内で溶けていきます。溶けてイオン化した水銀は、どんだん体に取り込まれていきます...恐ろしい!

メタルフリー治療に使う材料について

当クリニックでは、金属を用いない治療『メタルフリー治療』をご提供しております。
それでは、それぞれの成分や、特徴についてご説明いたします。

セラミック 陶材(お皿など)のことで。



利点:光の透過性が歯に似ており、抜けるような美しい白さを持つ。審美性が高い素材。とても硬い。色が変化せずいつまでも美しい。
欠点:ある程度厚みが必要。高価。

ハイブリッド 強化プラスチックのことで。



利点:歯に近い硬さ。色に多様性があり、様々な色の歯に対応できる。手頃な価格。
欠点:少し色が変わる。割れやすい。

ジルコニア 鉱石の一種で、宝石や人工ダイヤモンドとして使われます。



利点:非常に固くて、丈夫。土台の色を隠し、白さを出すことができる。
欠点:非常に固いので、一度装着すると外すのが大変である。高価。

金属のかぶせ物のやり替えなど、どうぞお気軽にお問い合わせください!!